

<歯学部紹介>

歯学部は、虫歯の治療や入れ歯について研究するだけでなく、歯に関わりのある脳や口、顎といった幅広い分野について研究をすることで、人の生活を向上させるべく様々な角度から研究を行っていく学部です。歯学部は6年生となっており、1年では歯科医としての心構えや教養を身につけるための勉強を行います。2年では基礎歯科医学、3年では臨床歯科医学、4年では実際の歯科医療の現場に接する早期体験臨床実習、5年、6年では臨床実習が行われます。

そして、卒業後、歯科医師国家試験に合格して、歯科医師免許を取得します。ただ免許を取得しても直ちに開業医として独立は出来ません。研修として大学病院などで1年以上勤務することが義務付けられており、その後に勤務医や開業医としての道があります。また、大学院に進学し、より研究を深める人も多くいます。

<シグマ講師による学部紹介 緑地公園駅前校 広実先生>

1.所属学部・学科: 歯学部・歯学科

2.専攻: 歯学

3.専攻についての詳細:

歯学部では、歯について様々な角度から勉強・研究を行います。もちろん、最終目標は、歯の治療・口腔内に違和感無く物を食べることができるようにすることで、そのための技術等については、授業の後、日々の実習で習得することになります。

勉強・研究は、歯の治療の歴史から始まり、虫歯になるメカニズムとその予防、人の体と歯の関わり、入れ歯の仕組み、東洋医学で知られている歯痛ツボなど様々です。ここでは、虫歯について一部だけ取り上げて、お話したいと思います。

まず、虫歯になる仕組みです。歯は骨よりも硬いカルシウムでできているのですが、物を食べることにより、口の中の細菌が活性化され、歯を溶かし始めます。このままでは、歯はどんどん溶けていくことになっていきますよね。でも、人の体はうまくできていて、歯が溶け出すと、それに対し、再生化をさせる能力を持っているのです。しかし、糖分をたくさんとったり、長時間「だらだら食べ」をすると、歯の再生能力が追いつかなくなって、どんどん歯が溶けてしまいます。これが虫歯ということになります。

また、口の中では、細菌は生きていこうとする為に巣をつくります。これが歯石といわれるものです。歯垢は歯ブラシで取り除けますが、放っておくと歯石になり、細菌が石灰化した巣のようなものになります。こうなると歯ブラシでは取れない上、虫歯になるリスクもかなり大きくなるというわけです。歯石は早めに取り除いておきましょう。口の中の細菌は砂糖分が大好きです。ですから予防としては、砂糖のかわりに代的甘味料(キシリトール)などの入った食品をとる工夫、ストレスをためないこと、体調管理などが大切です。

今回は虫歯を例にとってお話しましたが、歯の病気は、歯だけにとどまらず体全体、そして生活にも影響を及ぼすものです。歯が痛かったら、おいしい食べ物もおいしく感じることはできません

よね。それに話すことも大変になってしまいます。口の健康を保つことは非常に重要であり、「人間らしい生活」をするためには欠かすことのできないものです。人の暮らしを向上させるという意味で、私はこの分野で勉強・研究ができることに対して非常にやりがいを感じています。

4.卒業後の進路

卒業後は、歯科医師国家試験に合格した後で、1年間以上の臨床研修をし、病院の勤務医や開業医となります。または、大学院へ進学し、その後も研究を続けていく場合もあります。

5.取得可能な資格

歯科医師の国家試験受験資格が得られます。